

## 女性が選好するアメニティ空間と家具に関する研究 (3)

Research on the amenity environment and furniture reflecting women's preference (3)

中川 麻子<sup>1</sup>, 森田 舞<sup>2</sup>, 嶺野 あゆみ<sup>2</sup>, 浅田 晴之<sup>2</sup>, 井上 俊也<sup>3</sup>, 林原 泰子<sup>4</sup>

Asako Nakagawa<sup>1</sup>, Mai Morita<sup>2</sup>, Ayumi Mineno<sup>2</sup>, Haruyuki Asada<sup>2</sup>, Toshiya Inoue<sup>3</sup>, and Yasuko Hayashibara<sup>4</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学家政学部被服学科, <sup>2</sup>株式会社岡村製作所マーケティング本部オフィス研究所,  
<sup>3</sup>大妻女子大学キャリア教育センター, <sup>4</sup>大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科

キーワード：女性, オフィス環境, 家具

Key words : Woman, Office space, Furniture

### 1. 研究目的

女性の社会進出が推進される中, オフィス環境, アメニティ空間で過ごす女性に配慮し, 女性の心理的・身体的特徴に対応した空間と家具の改善等も始まっている。しかし, この分野の研究は未だに十分とは言えず, 多くは男性を中心に計画され, また女性が好みそうなイメージだけで制作されているのが現状である。こうした状況から, 真に女性の心身の特徴, 美意識, 選好を反映したオフィス家具, アメニティ空間を作り出すことは, 社会的ニーズが高いだけでなく, 家具業界への影響も大きい。

本研究は, オフィス家具業界の岡村製作所と大妻女子大学が協働し, 女性の選好と美意識からみたオフィス家具とアメニティ空間に関する基礎研究を行う。調査は, 関連専門家の意見を聴取しつつ, 質問紙調査とデータ解析, 実物大模型による官能検査を行い, 女性が選好するオフィス環境, アメニティ空間, オフィス家具の要素を明らかにし, 製品化に向けた椅子デザインを行う。

### 2. 研究実施内容

本研究は平成 26 年度から継続的に行われてきた。初年度は, オフィス椅子を例に挙げ, 20 代女性が選好するデザインと色彩について調査を行った。女子大学生および女性オフィスワーカーに協力を得て, 選好基準のキーワードとして「かわいい」の語を用いて, 椅子デザイン 326 サンプルを収集し, 代表 60 サンプルを抽出した。女子大学生 17 名に対して質問紙調査を行い, 結果を集計し, 女性が好むデザイン要素についてクラスター分析した。結果から, 本研究の椅子のサンプル写真につ

いて, 若年の女性の評価では, かわいい, かつ, 座りやすそうな椅子は見られなかった。また, 若年の女性が選好する椅子は, 6 つの異なる特徴のクラスターに分類することができた。さらに, くつろぎ感とボリューム感の 2 軸を用いて, 椅子の位置付けをポジショニングマップに示すことができた。

2 年目の平成 27 年度は, アンケート対象者の拡大に向けて, 調査方法の修正と項目の精査を行なった。2 回のプレ調査を実施し, アンケート質問紙の項目の有意性, 各クラスターの代表的椅子の選定, および図版の色彩が調査結果に及ぼす影響について検討した。その結果, サンプル画像とアンケート項目を絞り込み, 白黒画像を使用することとした。アンケートは改変を加えたのち, 20~70 代の男女 250 名を対象に実施し, 年代および性別による椅子の選好基準, および心理的な効果と椅子の選好基準との関係を明らかにした。合わせて, 女子大学生 120 名を対象に椅子の色彩の嗜好調査を行なった。

3 年目である平成 28 年度では, 前年度に得たデータの詳細な解析を行った。その結果, 年代および男女の性差による椅子に対する選考基準を明らかに比較した。特に, 20~30 代女性は, 他の年代の男女との嗜好と異なる傾向が現れたことから, この世代の女性にむけた製品化に対しては, 独自の基準を設ける必要があることが明らかとなった。



図 1. 実物評価調査の様子

これらの結果から、20～30 代女性の評価が特徴的なイスを選出し、株式会社オカムラのショールームにて、実物の椅子 9 点を用いた実物評価調査を行った（図 1）。調査は本学の女子大学生 20 名に対し、実際に椅子に触る、座るなどした上で、椅子が「欲しい」のか、「どのような環境」に欲しいのか、またその理由等の質問 90 問に答えてもらった。現在、データの分析を継続している。各々の椅子本調査の分析結果から、20～30 代女性に評価されるイスの形態の特徴を選出し、その特徴と合致するイスを明らかにする。

また、20 代女性が椅子の張地の質感に強い関心を持つことが、平成 27 年度の調査から明らかとなった。より具体的な張地の検討材料として、20 代女性約 20 名を対象に、椅子の張地サンプルと実物大モデルを用いた SD 法による調査を行った。椅子等の家具類用布地および一般用布地から白生地をそれぞれ 5 点、合計 10 点をあらかじめ選出した。

10 点の布地を用いて、素材サンプルカードと椅子カバーを作成し、それぞれ評価を行なった（図 2）。サンプル評価では高得点であった素材は、椅子の張地に使用しても評価が高い傾向があった。しかしながら、サンプル、椅子カバーともに「美しい」「わくわくする」など美的な評価が高いにも関わらず、「欲しい」「座りたい」などの所有や欲求に関する評価が著しく低くなる素材もあった。結果の詳細な分析は継続して行なっている。この分析結果から、若い女性が好む素材の要素と椅子用の張地に対する選好を明らかにし、今後の椅子デザインに活かしていく。

また、椅子のデザインについて検討するため、女子大学の学生ラウンジ（軽食や課題などができ

る教室以外のスペース）をモデルとし、新しい椅子と空間デザインのデザインを行なった。学生からの意見を参考にしてデザイン要素を挙げ、CG によって室内パース画を作成した。

以上のことから、今年度は椅子の選好条件の性別・世代別の評価基準の比較、20～30 代女性特有の基準の存在を明らかにすることができた。さらに 20 代女性が選好する椅子の形態やデザインに関する基準および椅子の張地についての検討から、椅子の評価に関する基礎的研究を行なった。

### 3. まとめと今後の課題

これまでではオフィスや公共空間等、様々な利用状況に対応するために、性差や年齢層を限定せず、広く椅子の選好条件について検討を行なってきた。しかし、今年度の結果から、20～30 代女性に特有の選好基準があり、独自の検討が必要であることが明らかとなった。今後は、より具体的な椅子デザインを目指し、特に女子大学の構内に適するように、女子大学生の選好基準に合致した椅子デザイン案の試作を目指す。

平成 28 年度に行った調査および統計分析から、20 代の女性が好む椅子のデザイン要素を明確にする。デザイン要素を反映した新たな椅子デザインを行う。実物大モデルを製作し、さらにこのモデルを使用した官能実験、アンケート調査、インタビューを経て、女子大学生が選好する大学構内に適した新たな椅子を創出する。

このことから、女子大学生が選好する椅子の基準が明らかになるとともに、真に女子大学生が望む大学構内に向けた椅子デザインの要素を明らかにする。快適な学習環境によって、大学における学びの質が向上し、将来的に社会で活躍できる優れた女性の人材育成につなげることができると考える。

### 4. この助成による発表論文等

#### ①雑誌論文

[1]中川麻子ほか.女性が選好するオフィス環境・アメニティ空間と家具に関する研究. 人間生活文化研究. 2016. No. 26, pp. 535-540